

# 大阪大学図書館報

Vol. 10, No. 3/4 September 1976

## 目 次

- |                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| ○本というもの                        | ○教官著作寄贈図書 |
| ○本館の対研究者サービスについて<br>(昭和50年度報告) | ○本館受入参考図書 |
| ○図書館委員会名簿                      | ○会 議      |
| ○文献複写料金の改訂(お知らせ)               | ○日 程      |
| ○法律文献二次資料案内                    | ○人 事      |

## 本 と い う も の

吉 田 博

本について何か書くようにとの電話を図書館の人から受けた。これも分館長とやらの仕事の一つかもしれないと軽い気持ちで承知して電話を切った。それから一日一日と日がたち、いつとはなしに切の六月末日が近づいてきた。だんだんと気持ちが重く、軽く了承したことを悔やみながら、今、ペンをとっている。

本と言えば小学生の頃の夏を思い出す。その頃まだ元気だった祖父も、そして父も、本が好きで、かなりの数の本を集めていた。門の横の書庫と名づけた部屋に本棚を並べ、本が一杯だった。かびくさいその部屋に入り、薄暗い光の中でそれらを見廻すだけで、何か頭の上を抑えられるような、威圧されるような感じに捉われるのであるが、その中にしばらくポツ然といると、いつとはなしに何か遠い知らない世界へのあこがれのような去り難い気持ちになっていくのがいつも不思議だった。そして夏休み毎の私の仕事は、妹に手伝わせてそれらの本を一度戸外に運び出し、風にあてることだった。虫喰い穴のポツポツとある中国の古典が主だった。内容は子供の私には全く解らなかったが、一度運んでいるとき落とし、「これは日本に二巻しかない本だぞ」と父に叱られたことを思い出す。大事なものののだと思ってみると、ポツポツの虫の穴にも奇妙な親しみを感じるものである。「あんまり読みもしないこんな本を置いといて、何になるんや」と子供の私が聞いたとき、祖父はただ笑って何も答え

てくれなかった。

私が高等学校の学生の頃は太平洋戦争の最中であつた。岩波の文庫本でもこの本屋さんには何冊といった配給の時代であつた。朝寝坊の私が朝早くから本屋さんの店の前でならんだ。やっとの思いで手に入れた本を大事に持ち帰り、白鷺城のみえる下宿の窓辺ではじめて開くときの胸のときめき、そしてあの新しい印刷の香り、今でも懐しい思い出である。こうして「出家とその弟子」「罪と罰」などなど手に入るものを乱読した。今、それらをふと取り出し、してみると、随分と紙も悪く、印刷も悪い。うら哀しい。しかし依然として私の本棚にある。おそらく私は一生、これらの本を手離す気にはならないだろう。

今年の四月末日で高次研、解剖の清水先生が阪大をやめられることになった。清水先生のお部屋が私共の研究室のすぐお隣りなので、よくお部屋へお邪魔もし、先生の買っておられた本もよく見せて頂いた。おやめになられる少し前、お部屋へ遊びに行った時、ふと「これらの本を吉田さんにあげますわ。私が持っているよりは、活用してもらえませんか」と、ぼつんと言われた。本は読むものであると同時に、いつも傍においておきたいもの、そんな本の魔力みたいなものを思い、清水先生のお気持ちを考えた時、私は戸惑った。

それらの本は今、私の部屋に並んでいる。大いに活用させてもらっている。本というものは本来、活用して下さる多くの人に広く利用してもらおうべきもの、そうかもしれない、と考えるようになった今日この頃である。  
(医学部教授 中之島分館長)

## 本館の対研究者サービスについて(昭和50年度報告)

図書館で実施されているサービスには、図書の受入・目録業務のような不特定多数の利用者に対する基本的サービスと、閲覧・参考業務として行われる特定個人の利用者に対するサービス等があります。現在本館参考掛で実施している研究者個人々々へのサービスの中で主なものについて、その概略と利用状況を報告し研究者各位のご理解とご活用を願う次第です。

### 1) 速報誌の目次配付サービス

速報誌の効率的利用を図るため、本館で航空便代金を負担することを条件に一ヶ月間本館で借用し希望者に目次(Contents)配付サービス、および複写サービスを行うもので、昭和48年度より実施しております。毎年年度末に各学部希望誌名等を調査しております。昨年度は、速報誌(自然科学系)14点を対象とし、13部局、77講座、245延タイトルの希望があり、本年度は、13部局、81講座、249延タイトルとなっています。(第一表：学内校費移算統計表参照)(大阪大学図書館報 Vol.10, No.2(June 1976)参照)

本年度の対象誌は、次のとおりです。

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1. Physical Review Letters.    | 8. Tetrahedron Letters.                     |
| 2. Applied Physics Letters.    | 9. B. B. R. C.                              |
| 3. Physics Letters, Sect. A.   | 10. FEBS Letters.                           |
| 4. Solid State Communications. | 11. Res. Commun. Chem. Pathol. & Pharmacol. |
| 5. Chemical Physics Letters.   | 12. Electronics Letters.                    |
| 6. JETP Letters.               | 13. Optics Communications.                  |
| 7. Chemical Communications.    | 14. Communications in Mathematical Physics. |

## 2) 文献複写サービス

本館に設置する複写器機として、電子複写機(RICOPY)、パナコピー(マウント付きスライド自動作成機)、マイクロ設備があります。第一表はそれぞれについての学内校費分の統計です。電子複写では、文科系学部よりも理工系学部からの依頼が多くなっています。これは文科系学部が豊中地区に集中しており、図書・雑誌の相互貸借が容易であること、本館で自然科学系の速報誌の目次配付に伴う複写サービスを行っていること、等に起因しておりますが、基本的には、本館が豊中地区の窓口となっていることを示していると言えます。パナコピースライド作成機は、電子写真方式により、有機光半導体フィルムを用いて約40秒程でマウント付きスライドを作成するものです。昭和49年1月より本館に設置し学内校費振替のみ取扱っております。利用は著しく理工系学部によって占められております。理工系では、研究資料の整理保存のほか、教育、研究発表にスライドが活用されていることを示すものと言えましょう。この装置は中之島、吹田の両分館にも設置しております。資料の複写、配布、保存にマイクロ形態のものが多くなってきておりますが、マイクロサービス体制として本館では、マイクロフィルム、およびマイ・クロフィッシュ器機を設置して全学の利用に備えております。昨年および一昨年を通じての利用状況は、教養部、理学部、文学部、基礎工学部

第一表 学内校費移算統計表 (50年度)

区 分 学 部	電 子 複 写		パナコピースライド		マイクロフィルム		速報誌目次配付	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	タイトル数	金 額
文 学 部	1	4,375			8	4,772		
法 学 部	2	1,050			1	1,410		
経 済 学 部					1	2,323		
人 間 科 学 部	7	1,650	1	2,940				
教 養 部	7	2,425	164	234,920	14	44,926	8	11,000
言 語 文 化 部	1	175			1	4,075		
理 学 部	15	5,300	220	163,560	10	1,412	10	13,400
基 礎 工 学 部	13	2,325	589	666,940	6	2,288	68	97,800
工 学 部	56	24,225			2	274	70	99,800
薬 学 部	12	21,575					12	21,400
医 学 部			1	700			13	12,900
歯 学 部	1	75					2	2,400
微 研							10	11,600
蛋 白 研	1	175					8	9,600
産 研	5	850					33	49,400
低 温 セ ン タ ー	6	675					3	5,000
溶 接 研							7	9,300
医 療 短 大	1	250						
そ の 他	1	300					1	1,200
合 計	129	65,425	975	1,069,060	43	61,480	245	344,800

### 3) 学外への文献複写申込受付

研究、教育活動の多様化・多岐化、また学際化の進行に伴い学術情報は際限なく増大化を続ける今日、多くの研究者が、必要とする文献資料の所在調査および入手に困難を感じております。大阪大学においても、昨年5月に実施された「研究者の情報要求と利用に関する調査」(京大、阪大、神戸大、京都教育大、京都工芸繊維大の5大学の研究者についての調査。阪大では、人文・社会科学：122人、自然科学：1,293人の回答があった。大阪大学図書館報 Vol.9, No.4/5 に結果を報告しております。)によれば、重要な情報源である図書および雑誌の入手について、約50%の研究者が、非常に困難、またはときどき困難を感じると回答し、その理由として、①約30%が所属の部局図書室にない、②約40%が所属大学内にない、③約20%が国内にない、④約10%が所在不明、と答えている。これらの理由で、①を除き、すべて図書館の学外への文献複写申込業務の対象となるものであります。必要とする文献で入手出来ないものがありましたら、本館または分館の参考掛にお問合せ頂き当サービスの活用をお願いする次第です。

#### 第二表

### 学外文献複写申込統計 (50年度校費分)

#### (1) 学部別文献数

学 部	文 献 数
文 学 部	14
法 学 部	44
経 済 学 部	6
社 研	18
教 養 部	28
言語文化部	32
人間科学部	17
基礎工学部	144
合 計	303

#### (2) 申込先機関別文献数

申込先機関	文 献 数	申込先機関	文 献 数
京 都 大 学	44	群 馬 大 学	5
東 京 大 学	41	弘 前 大 学	3
国会図書館	36	山 口 大 学	3
名古屋大学	30	一 橋 大 学	2
北海道大学	25	東京教育大学	2
東 北 大 学	17	熊 本 大 学	2
広 島 大 学	11	岩 手 大 学	1
九州大学	11	茨 城 大 学	1
東京工業大学	11	福 井 大 学	1
神 戸 大 学	10	岐 阜 大 学	1
岡 山 大 学	8	横 浜 国 立 大 学	1
金 沢 大 学	7	鳥 取 大 学	1
新 潟 大 学	7	鹿 児 島 大 学	1
J I C S T	5	そ の 他	16

さて、第二表は昨年度の学外への文献複写申込（本館受付校費分）の結果です。学部別文献数では、基礎工学部、法学部、言語文化部が上位を占めております。言語文化部は創設後、日が浅いため積極的に学外の資料を取集中のようです。基礎工学部の件数が著しく多いのは、同分室で学外への文献複写申込を取扱っていなかったため本館で受付けた結果です。理工系学部の学外図書館への依存が高いことを示しております。申込機関別では、京都大学、東京大学、国立国会図書館、名古屋大学、北海道大学の順になって、これらの機関で全体の60%近くの申込件数が占められ、地理的距離に関係なく大規模大学、蔵書数の多い図書館に集中しております。

### 図書館委員会委員名簿 (51.9.1.現在)

図書館長	高田教授(経)	工 学 部	◎西村教授	大路教授
文 学 部	武田教授 山田教授	基 礎 工 学 部	須田教授	坂口教授
人 間 科 学 部	茅野教授 田中教授	教 養 部	井上教授	大塚教授
法 学 部	矢崎教授 覚道教授	微生物病研究所	加藤教授	伊藤教授
経 済 学 部	大野教授 宮本教授	産業科学研究所	森本教授	松尾教授
理 学 部	春名教授 森田教授	社会経済研究所	畠中教授	鬼木教授
医 学 部	◎吉田教授 大久保教授	蛋白質研究所	倉橋教授	成田教授
医学部附属病院	内藤教授 藪内教授	溶接工学研究所	圓城教授	岩本教授
歯 学 部	八木教授 堺 教授	事 務 局	床井局長	
薬 学 部	◎三浦教授 佐々木教授	<small>(オブザーバー)</small> 医療技術短大	東 教授	山崎教授
言 語 文 化 部	大高教授 佐藤教授		◎印：分館長	

### 附属図書館 豊中地区運営委員会委員名簿 (51.9.1.現在)

運営委員長	武田教授(文)	言 語 文 化 部	大高教授	佐藤教授
文 学 部	武田教授 山田教授	薬 学 部	佐々木教授	上原教授
人 間 科 学 部	茅野教授 森 教授	基 礎 工 学 部	須田教授	坂口教授
法 学 部	矢崎教授 覚道教授	教 養 部	井上教授	大塚教授
経 済 学 部	大野教授 宮本教授	社会研済研究所	久我教授	鬼木教授
理 学 部	春名教授 森田教授	<small>(オブザーバー)</small> 医療技術短大	東 教授	山崎教授

### 附属図書館 中之島分館運営委員会委員名簿 (51.9.1.現在)

分 館 長	吉田教授(医)	歯 学 部	猪木教授	八木教授
医 学 部	大久保教授 正井教授	微生物病研究所	竹田教授	伊藤教授
医学部附属病院	内藤教授 藪内教授	蛋白質研究所	倉橋教授	成田教授

## 附属図書館 吹田地区運営委員会委員名簿 (51.9.1.現在)

分館長	西村教授(工)	産業科学研究所	森本教授	松尾教授
工学部	伊藤教授 大路教授	溶接工学研究所	園城教授	岩本教授

## 文献複写料金の改正 (お知らせ)

国立大学附属図書館の文献複写料金について文部省から通知があり、昭和51年4月1日より学内私費、学外私費、および学外校費料金が下記のとおり改正になりましたのでお知らせします。

■■■■■■ 記 ■■■■■■

### 文献複写料金表

種 別	学内者の場合	学外者の場合	学内校費移算による場合
○電子複写方式による場合 1枚につき	40 円	45 円	25 円
○ロールマイクロフィルム方式による場合			
基 本 料 1件につき	100	100	50
ネガフィルム撮影料 1コマにつき	15	20	6
特殊撮影料加算 1コマにつき	10	10	2
複写用印画紙による引伸料 A5,1枚につき	50	60	18
〃 B5, 〃	80	90	25
〃 A4, 〃	100	110	30
〃 B4, 〃	150	170	50
一般写真用印画紙による引伸料 A6, 〃	30	35	25
〃 B5, 〃	100	120	80
○マイクロフィッシュ方式による場合			
フィルム撮影料 1シートにつき	380	430	170
タイトル撮影料 1件につき	25	25	10
特殊撮影料加算 1コマにつき	10	10	2
○バナコピーによる場合 1枚につき	—	—	140
○リーダープリンターによる場合 1枚につき	40	45	

## 法律文献二次資料案内

ここでは、もっぱら学部生諸君を対象に、阪大図書館を利用して可能な限りでの、法学関係の資料の探し方を簡単に案内しようと思う。判例・論文等の一次資料に対し、それらを事項別・人名別等に排列した目録などを二次資料と言うが、これを十分に使いこなすことは法学部学生に必須の技術であろう。大学にいる間は、与えられたレポート課題、ゼミの課題を解決することが主であり、そのためには、先生から指示された文献・教科書や参考書を読み、

それらに引用されている文献をイモヅル式に調べていけば十分であり、それがまた基本的な学習方法である。しかし、一旦社会に出て教科書に簡単にしか触れられていない問題にぶつかった時は、それに関する文献を自力で捜さなければならない。判例はしばしば変るものであるが(ex. 利息制限法や仮登記担保・尊属殺人に関して)、判例が変ったことを知らずに古い判例に従って法律相談の回答をすれば、損害賠償問題になるだろうし、また、旧来の判例が学者によって最近どのように評価されているかを知ることが、法律相談の回答上不可欠な場合もある。要するに、当面する問題に関して現在どのような判例・論文があるかを知ることが必要であり、そのためにはどのような二次資料があるかを知っていることがbetterである。

次に、阪大図書館本館参考図書室(二階)にある二次資料を紹介しよう。

① 邦文法律雑誌記事索引(最高裁判所図書館), 年刊; 最高裁判所図書館に受入れられた邦文雑誌のうち、法律関係の論文・判例評釈および主要記事を収録。論文等は事項別に、判例評釈は条文別に排列。巻末に人名索引あり。一部欠号があるが、現在、昭和35年号~49年号が配架されている。

② 法律関係雑誌記事索引(法務図書館), 年刊; 主に法務図書館に收藏された各年度発行の定期刊行物および記念論文集の法律関係の記事を、事項別ならびに人名別に排列。判例批評なし。一部欠号があるが、昭和20年号~48年号まで配架されている。

③ 雑誌記事索引(人文社会編)(国立国会図書館), 半年刊; 国会図書館に受入れられた雑誌について、事項別に排列。判例そのものは除かれているが、判例研究は最高裁判所のものを中心に採録されている。年一回著者別索引が発行される。政治・経済・歴史等他分野のものも含まれているので、中広い研究に有益であろう。昭和25年~49年まで配架されている。

④ 雑誌記事索引——人文・社会編——累積索引版 1970—1974(国立国会図書館); ③の各分野ごとの累積索引版。5年分が一度に調べられるのは便利である。今後、③の創刊号(1948年)からの累積索引版も逐次刊行される予定である。

⑤ 戦後法学文献総目録 第一集、第二集、(法律時報編集部); 太平洋戦争後昭和28年までの法学文献(単行本・論文集所載論文・雑誌掲載論文)が事項順に排列されている。

⑥ 戦後法学文献総目録。私法編・公法編(上)(法律時報編集部); ⑤の続編をなすもの。私法編は昭和37年12月までの文献を収録し、公法編は昭和41年12月(憲法調査会の活動をめぐる議論が一段落する時期)までの文献が収録されている。

⑦ 法律時報、文献月報(法律時報編集部); これは通常の雑誌であるので、参考図書室にはなく、指定図書室の雑誌架または書庫にある。毎月の法律・政治等に関する著書・報告書・雑誌その他の刊行物に掲載された法律関係の論文・書評・資料等を収録し、事項別に掲載する。判例批評もまとめて収録されている。

以上が基本的な二次資料であるが、その他に、やや特殊なものになるが、次のものが参考図書室にある。

⑧ 文献目録 一輯・二輯(神戸高等商業学校商業研究所); 大正5年~14年(一輯)および大正15年~昭和5年までに発表された、経済・法律等に関する単行本・雑誌論文・資料等が事項別に収録されている。

⑨ 家族法文献集成(京都大学人文科学研究所); 昭和23年1月(改正民法親族・相続編の施行)~昭和42年末の間の単行本・論文・判例批評・東西両ドイツの文献を収録する包括的

なものである。民法附属法に関するもの、官庁出版にかかる資料・報告書等も収録されている。

さて、以上の二次資料により自分が当面する問題に関係ありと思われる文献を知り得たら、次はその所在調査および入手が問題になる。これについては本館参考掛で色々にご相談にに応じているので、二階カウンターまでお越し下さい。

(大学院法学研究科 栗田 隆)

### 教官著作寄贈図書

#### —本 館—

片山 良展 (文・助教授)  
トーマス・マン文学とパロディー  
片山良展、義則孝夫編  
(ドイツ文学研究叢書1)  
(クヴェレ会 昭51)

#### —基礎工学部分室—

竹本 喜一 (工・教授)  
工学ドイツ語入門 竹本喜一編  
(朝倉 昭51)

#### —吹田分館—

竹本 喜一 (工・教授)  
工学ドイツ語入門 竹本喜一編  
(朝倉 昭51)  
高分子を用いる合成化学 大河原信、  
竹本喜一、原田篤也共著  
(講談社 昭51)  
浜口 智尋 (工・助教授)  
固体物性 上・下 (丸善 昭50/51)

### 本館受入参考図書

(昭和51年6月～8月)

Encyclopedia of library and information  
science, vol. 13-15. (Dekker)

Книжная летопись, 1911  
(Kraus Reprint)

Der Volks Brockhaus. (Brockhaus)

Большая Советская Энциклопедия, Том  
18-19

雑誌記事索引 人文・社会編 累積索引版  
1970年(第23卷)～1974年(第27卷)

シリーズ 5: 社会

” 9: 歴史・地理

” 10: 文学・語学

(国立国会図書館)

哲学事典 改訂新版 (平凡社)

新倫理学事典 金子武蔵編 (弘文堂)

日本史研究書総覧 遠藤元男編 (名著出版)

近世古文書解読字典 若尾俊平他編

(柏書房)

アジア歴史事典 1-10 (平凡社)

The new language of politics; an  
anecdotal dictionary of catchwords,  
slogans, and political usage, by  
William Safire. (Random House)

The encyclopedia of management, ed. by  
Carl Heyel. (Reinhold)

The handbook of private schools, 54th  
ed. (Sargent)

El-Hi Textbooks in print, 1974.  
(Bowker)

行政外来語・略語辞典 (ぎょうせい)

地方自治関係実例判例集 (ぎょうせい)

税務用語事典 (ぎょうせい)

教養経済学辞典 大河内一男等編  
(青林書院新社)

財務会計辞典 新版 吉国一郎他編  
(学陽書房)



- 体系経済学辞典 改訂新版 高橋泰蔵他編  
(東洋経済新報社)
- 法律用語の基礎知識 (有斐閣)
- 近代経済学の基礎知識 ( " )
- 経済用語辞典 金森久雄編  
(東洋経済新報社)
- 経済学用語の基礎知識 (有斐閣)
- 法律問題の基礎知識 ( " )
- 体系企業会計諸則事典 木内佳市他編  
(税務経理協会)
- 確率・統計ハンドブック 2版  
R. S. Burington 著 (森北出版)
- 情報数学ハンドブック  
M. L. Smolianskii 著 (森北出版)
- 基礎数学ハンドブック I. N. Bronstein 著  
(森北出版)
- 原色日本海岸動物図鑑 内海富士夫著  
(保育社)
- 植物の事典 増補 佐竹義輔等編 (東京堂)
- Comprehensive urban planning; a  
selective annotated bibliography with  
related materials, by M. C. Branch.  
(Sage)
- 外国出願の新知识、制度と手続の要点  
村井高一著 (日本発明新聞社)
- マーケティング基本用語の解説  
伊藤康雄等著 (文真堂)
- The filmgoer's companion, 3.ed. By L.  
Halliwell. (Hill and Wang)
- スポーツ用語事典 (ぎょうせい)
- Der grosse Duden. Bd. 1-7, 9  
(Bibliographisches Institut)
- Словарь церковно-славянского русского  
языка, Том 1, 4.  
(Тилографія Императорскои А. Н.)
- 玉篇略 (古辞書叢刊行会)
- 節用集 ( " )
- 五方通語 村上義茂著 (KKアルチャ)
- かな解読字典 中田易直等編 (柏書房)
- 英語表現辞典 大塚高信編 (研究社)
- 唐詩鑑賞辞典 前野直杉編 (東京堂)
- 《逐次刊行物》
- China yearbook 1975.
- Библиография изданий А. Н. СССР, Том 17.
- Verzeichnis lieferbarer Bücher, 1975/76  
Bd. 2.
- 人事興信録 1975
- 予算と地方財政 1976
- 全国試験研究機関名鑑 1975/76

## 会 議

### — 国立大学図書館協議会 第23回 —

51. 6. 4日(金)～5日(土) 於：名古屋ターミナルホテル

本学出席者：図書館長、事務部長、整理課長

6月4日(金)、5日(土)の2日間にわたり、東海地区の7国立大学が当番校となり名古屋ターミナルホテルで約190名が参加して開催された。総会における主な報告・協議事項は次のとおりである。

1. 岸本奨励賞の報告 東洋学関係資料(石浜文庫)の整備に関する功績(大阪外語大、布川嘉佑)、理工系大学における図書館業務の電算化(東工大、電算機導入ワーキンググループ)、大学図書館における目録業務の改善(広島大、品川英夫)の3件の受賞が報告された。
2. 各調査研究班並びに特別委員会の報告 (1)「大学図書館改善」調査研究班、(2)図書館機械

化調査研究班、(3)相互協力調査研究班、(4)外国雑誌調査研究班、(5)司書職制度調査研究班、(6)学術情報流通に関する特別委員会、(7)大学図書館基本問題特別委員会からそれぞれ調査、研究結果について報告された。

3. 研究集会 「大学図書館改善要項の改訂をめぐる諸問題」というテーマで、大学図書館改善調査研究班が調査・研究した「国立大学図書館改善要項」について質疑応答があった。
4. 分科会、第一分科会(一般事項および運営に関する問題)、第2分科会(予算、人事)、第3分科会(奉仕及び技術的問題)の3分科会で各地区提出の協議題を協議し、全体会議でとりまとめ、要望書を文部大臣に提出することとした。

——豊中地区運営委員会——

51. 6. 1. 10:00~13:30 於: 本館会議室

1. 昭和51年5月1日12:00から16:00までの間、本館において開催された「いちよう祭展示会」の実施について、事務部長から概要報告が行われた。
2. 大阪大学附属図書館体系検討小委員会の豊中地区選出委員について諮られ、従前どおり、武田恒夫教授(文)、山田信夫教授(文)および覚道豊治教授(法)に決定された。
3. 大阪大学附属図書館体系検討小委員会中間報告に関し、関係各委員から意見が述べられた。
4. 研究用図書(和書)の値引きについて、事務部長から説明の後、各学部の意向を聴取することとなった。

——附属図書館体系検討小委員会——

51. 6. 25. 13:35~16:45 於: 吹田分館

1. 分室の在り方について、その不均衡是正の可能なもので努力すべき事項、新たに分室を設ける場合の設置基準の制定および研究者に対するサービス向上、施策等の審議が行われ、結論をえず、次回にさらに検討することとなった。

——附属図書館体系検討小委員会——

51. 7. 20. 10:05~12:10 於: 吹田分館

1. 分室の在り方について、予算、職員、業務面等におけるアンバランスの是正に関し、審議が行われ、各委員から意見が開陳された。
2. 本小委員会に配布された資料をとりまとめ、資料集を作成することが決定された。
3. 従前の審議に基づき、第2次中間報告案を作成し、9月中旬に開催される本小委員会に諮ることが了承された。

——図書館委員会——

51. 7. 20. 14:00~15:45 於: 大阪大学工業会館

1. 本年度から学生用図書の購入については、洋書をC・Pの1割引き、和書を定価の1割引きで、また、研究用洋書をC・Pの5%引きとすることに関係各業者と協議、決定した旨の報告が行われた。
2. 昭和51年度図書館予算(事業費、運営費)の配分が決定された。

学生用図書購入費および指定図書購入費の各学部別割当方針については、均等割、原資の比率については、本年度の比率(33%)を前例とせず、来年度においては、改めて分館長会議で検討することが了承された。また、地区分担金の取扱いについても、部局の財政的



51. 7. 20. 附属図書館体系検討小委員会 (吹田分館会議室)  
 51. 7. 20. 附属図書館豊中地区運営委員会 (大阪大学工業会館)  
 51. 7. 20. 図書館委員会 ( " )  
 51. 7. 20. 開架図書選択小委員会 ( " )  
 51. 7. 30. " (本館会議室)  
 51. 8. 9. 第3回日米大学図書館会議議事録編集委員会準備会 (京都大学附属図書館)

## ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 人 事 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

### 職員の異動

配置換	閲覧課	閲覧第一掛長	谷田 功	51.5.1.	整理課	受入掛長
"	整理課	受入掛長	津田恭司	51.5.1.	"	目録掛長
"	閲覧課	閲覧第二掛長	河崎戒三	51.5.1.	閲覧課	閲覧第一掛長
採用	文部事務官	門 昇	51.6.1.	"	閲覧第一掛	
配置換	事務補佐員	清水 弘	51.6.16.	レーザー核融合研究センターへ		
昇任	閲覧課	閲覧第一掛	泉 文雄	51.7.1.	閲覧課	閲覧第二掛 運用主任